

# 日本向け墓石工場減少の影響は？！

## JSC 貿易部ニュース 中国編

味覚の秋、芸術の秋です。(^^) 皆様には充実した日々をお過ごしのことと存じます。

さて昨年 2018 年、日中石材交流会にて福建省の日本向け墓石工場数の統計発表がございました。

下の文書が出回っていたので、ご記憶の方もいらっしゃるかもしれません。

↓↓↓↓

### 一、生産経営の基本状況

#### 1、地域別統計

地域分布：日本への墓石輸出工場は福建省全体的に減りつつあります、2018年10月31日まで（貿易会社を除く）惠安に82軒、康美と羅東に36軒、石井に15軒、アモイ地区（同安と集美）に5軒、漳州地区（漳浦、長泰、角美）に8軒、福州に2軒、全部で148軒。2017年12月31日の173軒（訂正した軒数）に対して、25軒減少しています。

あれから一年、2019年現在ではどうなっているのでしょうか？

2018年のような正式な統計が無いので、色々聞いた話をまとめさせていただきますと・・・

惠安（崇武含む）・・・50数軒程度、康美・・・34軒、石井・・・14軒

厦門（同安、集美）・・・4軒、漳州（漳浦、長泰、角美）・・・5軒、福州・・・2軒

合計 約110軒

上の数字は石材協会の正式な統計ではなく、私が個人的に取引先に聞き取りを実施して調べた結果ですので、あくまで参考ということで留めておいて下さいませ。

しかしながら、年々日本向けの工場が減り続けている事は間違いないと思います。図にも2018年と2019年の対比をわかりやすくまとめてみました。あくまで参考数値ですが工場数は約25%減少していることとなります。



また、6月に環境検査ですべての工場がストップ、ようやく再開し始めた康美地区からも新たに不穏なニュースが飛び込んできています・・・

先月9月4日の康美政府の発表では、来年2020年の8月31日までには康美地区の全ての工場を閉鎖させ工業区に移転させるという計画もあるとかないとか・・・

どの地域もそうですが、工業区に移転すると言っても工場の費用負担は相当額になりいまの石材工場の経営余力では費用が捻出できない可能性が高いと思われます。よって2020年の旧正月までに康美地区の全工場が閉鎖する可能性もあるのでは・・・というような噂も出ているようです。(※あくまで噂ですので引き続き情報収集にあたります)

でも仮にそうなると、来年以降は更に約30軒工場が減り、日本向け墓石を生産できる工場は福建省全体で70数軒ということになります。その結果、どうなっていくのかというと・・・

実例として、いま漳浦地区の工場が環境対策検査で停止・生産調整をしています。その結果、外柵の注文を中心に石井地区の工場に多くの注文が流れ込み、ただ混乱と慌ただしさの中で品質低下・納期延長・価格高騰など、買い手にとっては大きなマイナスの影響が出始めています。

また需要と供給の関係からか、少量しか発注のない日本の会社からの高い品質要求の注文は「受け付けない」もしくは「重要視しない」といった傾向も出てきています。

いま日本向け墓石工場を新たに創業しようという人はいません。利益のない状態での経営や慢性的な赤字体質で疲弊する国内外の墓石工場には、今後さらに人手不足や高齢化といった深刻な問題が加わります。価格的な問題から中国以外の国での生産という選択も難しく、日本の石材店はそういう状況の中で、やはりいまある工場と向き合いながら「お墓」を作り続けなければならないということになります。

以上、日本向けの墓石工場減少がもたらす影響について、私見を交えてややシリアスに述べさせて頂きました。

しかし、しかし、ご安心くださいませ！

北海道から九州まで日本全国に営業体制を持つ日本石材センターでは、多くのお客様のご支援も賜りながら、各パートナー工場と強いパイプを維持しております。

業界随一と評価をいただく？現地検品体制にも一層磨きをかけ、品質・納期面だけでなくあらゆる面でお客様に安心してお取引いただけるよう努力を続けています。そういうことですので引き続きご愛顧のほどお願い申し上げます！！(^)

では雰囲気を変えて、そんな状況下で今年 2019 年、わたしたち仕入部門が中国の工場から言われたキーワードランキング「一位」をご紹介します（^）

クイズです。それは～

1. 「単価上げさせてください～！」でしょうか？
2. 「別途加工賃が必要です～！」でしょうか？
3. 「注文ください～！」でしょうか？

皆さん、どれだと思えます（笑）



答えは、4. 「もう一週間お願いします！」でした（笑）

これまでの業界の感覚ですと・・・・・・・・

「一週間長めにとって注文を出しても、結局ギリギリにならないと切らないでしょう～」  
「よそは週末に注文出しても翌週船積みしてくるよ～」という感じかと思いますが・・・

現在も営業サイドからは「急ぎ船積み」「翌週船積みお願い！」という相談も多いのですがここ最近の注文集中による混乱だけでなく、工場の人員削減も相まって生産力が大きく低下しているところも多く、生産日数を「一週間長め」に求めてくる工場が増えてきています。

今までの一般的な工場の生産スケジュールは、出荷リミットである金曜日の夜もしくは土曜日の早朝ギリギリまで生産、そして大慌てで船積みといった感じです。

しかし、そうなると夜間や深夜の検品になるケースが多く、「見えにくい」「検品効率が悪い」「手直しの確認ができない」「過重労働」といった問題だけでなく、最後の木枠梱包も手抜きすることが当たり前になってきています。やはり、このスケジュールでは無検品での出荷はできても、しっかり検品して出荷することは難しいのです。

いま当社では、品質改善のため営業部門だけでなく、本社仕入部門及び現地の検品社員も総動員して、できる限り水曜日や木曜日に生産を終了させ、早い段階で一次検品ができるよう生産体制を整え直すべく指示・指導をしております。しっかりと二次検品、最終検品をして商品を出荷するためです。当然、工場には生産スケジュールの改善を強く促しております（でも工場は当然採算性を一番に考えるので簡単ではありませんが・・・）  
そういうことですので、お客様の方でもできることからご協力お願い致します！

工場からだけでなく私たち仕入部門からも、品質と価格安定のため

「もう一週お願い致します！」とお願いする次第でございます。m( )m

もちろん、「どうしても急ぎ！」の短納期も可能な限りご対応させていただきますので、まずはご相談お願い致します。(^^)

## さて今月の石のお話です。

「平和 654」「長泰 654」の丁場が停止後、価格も高騰、品薄感も高まる「654」シリーズで、次の新たな中間色系有望種として、今回は「秋海石」をご紹介します。

下の写真のように、「平和 654」や「長泰 654」と比較すると色は少し薄いですが青味は十分にあり、お使い頂けると思います。



角周りも5尺角が取れ、長さは9尺程度まで取れます。原石状態で比較しても「654 平和」「654 長泰」のようなボタ・白筋は少なく、「秋海石」の方がより綺麗です。

吸水については「654 長泰」と同程度とのこと。

左下のサンプル写真のように、小さな、小さな黒玉が出ますが、さほど気にはなりません。



丁場は4年以上前から採掘しており、原石も安定して入手できるようです。

いま福建省では丁場がどんどん閉鎖されておりますが「秋海石」の丁場は福建省ではございません。他省の石なので、現時点ではまだ採掘も順調、在庫も豊富です。



まだまだこれからの石ではありますが次の中間色系の有力候補としてご紹介させていただきます。

では、今月も最後まで読んで頂きましてありがとうございました。

朝晩、日毎に冷え込んできました。皆様、体調を崩されませんよう、ご自愛くださいませ。

2019/10/01